

災害時の課題解決に着手

常盤公園を実証フィールドに



ドローンの操縦研修に励む学生（アクトビレッジおので）

防災の専門家、山口大学の学生と宇部高専の生徒が協力。学生たちに

ドローンを活用したサービスを提供するエアーズ（本社東京都）は、今月、常盤公園を実証フィールドに、災害時の課題をドローンやAI（人工知能）で解決する手法の開発に取り組む。

ドローンやAI活用 東京のエアーズ

はドローンによる撮影にも挑戦してもらう。また、被害情報の収集や被災時

の人口密集の把握、進路の推定などに役立てるため、学生にシナリオ通りに集団で園内を歩いてもらい、AIの学習用データを収集する。最終的には、データを端末側で処理するエッジAI搭載のドローンを活用したシステムを開発し、防災に生かす。

プロジェクトは、同公園を舞台にイノベーション（技術革新）や新たなビジネスの創出に向けた実証事業を行う市の「とさく公園チャレンジ（とさくチャレ）」の一環で、エアーズの他に3事業者

が今年度、同園で実証を行う。現在、学生ら15人が4組に分かれて操縦研修を行っている。8月30日はアクトビレッジおので4人が同社の社員から操縦ノウハウを学んだ。

宇部高専電気工学科3年の竹内輝君は「想像よりも難しいので、落ち着いて操縦することが大切。常盤公園での撮影にも協力したい」と意気込みを語った。同社営業部の竹鼻美咲さんは「ドローンを通じて人々のサポートができれば」と話していた。（向井）